

ヒアリング古典 百人一首 百人一首⑤

名前 へ

く

恋こいすてふわが名なはまだたき立ちにけり

人知ひとれずこそ思おもひ初はめしか

壬生みぶの忠見ただみ

契ちぎりきなかたみに袖そでをしぼりつつ

末すえの松山波まつやまこさじとは

清原きよはらの元輔もとすけ

逢あひ見みての後の心のちこころにくらぶれば

昔むかしは物ものを思おもはざりけり

権中ごんちゅう納言なごん敦忠あつただ

逢おうふことの絶たえてしなくばなかなか

人ひとをも身みをも恨うらみざらまし

中納言ちゅうなごん朝忠あさただ

あはれともいふべき人ひとは思おもほえで

身みのいたづらになりぬべきかな

謙徳公けんとくこう

ヒアリング古典 百人一首 百人一首⑤

名前 へ

く

由良の門を渡る舟人かぢを絶え

行方も知らぬ恋の道かな

曾禰好忠
そねのよしただ

八重むぐらしげれる宿のさびしきに

人こそ見えね秋は来にけり

恵慶法師
えぎようほうし

風をいたみ岩うつ波のおのれのみ

くだけて物を思ふころかな

源重之
みなものしげゆき

みかきもり衛士のたく火の夜はもえ

昼は消えつつ物をこそ思へ

大中臣能宣朝臣
おおなかとみのよしのぶあそん

君がため惜しからざりし命さへ

長くもがなと思ひけるかな

藤原義孝
ふじわらのよしただ